


2級土木施工管理技術検定学科試験

合格のための学習計画の手引き

本書「分野別 問題解説集 2級土木施工管理技術検定 学科試験」は、最新問題を中心として、試験の頻出テーマとなる重要項目を解説したものです。本書の特長は、今年度の試験に出題される問題を特定し、その攻略法を解説した合格のための虎の巻（精選模試）を提供していることと、演習問題を通じて学科試験の体系を理解できることにあります。これらの解説は、動画による徹底解説として提供しています。是非ご利用ください。

独学で完全合格！ GET 研究所

GET 研究所の動画サポートシステム	
学習項目	無料 GET WEB 講習 
合格のための学習計画の手引き	受験ガイダンス & 学び方講習
頻出問題を通じた学び方の解説	無料 YouTube 動画講習
分野別 最新問題演習	土木一般の図解講習 無料 YouTube 動画講習
分野別 重要項目集	専門土木の図解講習 無料 YouTube 動画講習
実力判定模試	施工管理の図解講習 無料 YouTube 動画講習
虎の巻(精選模試)	「虎の巻」解説講習 無料 YouTube 動画講習

最新の学科試験の動画解説を視聴できます！

平成 30 年度前期学科試験の解説講習 (平成30年6月末予定)	無料 YouTube 動画講習
平成 30 年度後期学科試験の解説講習 (平成30年11月末予定)	無料 YouTube 動画講習

<http://www.get-ken.jp/>

GET 研究所

検索



スーパーテキスト
無料動画



本テキスト動画視聴のパスワード

Contents

■ 合格のための学習計画の手引き	1
■ 2級土木施工管理技術検定学科試験 受験ガイダンス	無料 YouTube 動画講習 4
■ 頻出問題を通じた学び方の解説	無料 YouTube 動画講習 9
■ 分野別 最新問題演習 & 重要項目集	
第1分野 土木一般	図解 無料 YouTube 動画講習
1.1 土木一般	最新10年間の出題傾向 17
1.2 土工	最新問題演習 18
1.3 コンクリート工	最新問題演習 46
1.4 基礎工	最新問題演習 69
1.5 土木一般	重要項目集 89
第2分野 専門土木	図解 無料 YouTube 動画講習
2.1 専門土木	最新10年間の出題傾向 105
2.2 構造物	最新問題演習 107
2.3 河川・砂防	最新問題演習 125
2.4 道路・舗装	最新問題演習 149
2.5 ダム・トンネル・海岸・港湾	最新問題演習 173
2.6 鉄道・上下水道	最新問題演習 198
2.7 専門土木	重要項目集 229
第3分野 土木法規	
3.1 土木法規	最新10年間の出題傾向 241
3.2 労働関係法	最新問題演習 242
3.3 国土交通省関係法	最新問題演習 259
3.4 火薬類・環境・港則関係法	最新問題演習 280
3.5 土木法規	重要項目集 301
第4分野 施工管理	図解 無料 YouTube 動画講習
4.1 施工管理	最新10年間の出題傾向 308
4.2 共通工学	最新問題演習 310
4.3 施工計画	最新問題演習 335
4.4 工程管理	最新問題演習 352
4.5 安全管理	最新問題演習 366
4.6 品質管理	最新問題演習 392
4.7 環境保全	最新問題演習 418
4.8 施工管理	重要項目集 429
■ 2級土木施工管理技術検定学科試験 実力判定模試	452
■ 虎の巻(精選模試)第一巻	無料 YouTube 動画講習 462
■ 虎の巻(精選模試)第二巻	無料 YouTube 動画講習 467

GET WEB 講習 講習

2級土木
施工管理技術検定
学科試験

受験ガイダンス
&
学び方講習

無料 YouTube 動画講習

<http://www.get-ken.jp/>

GET 研究所

検索

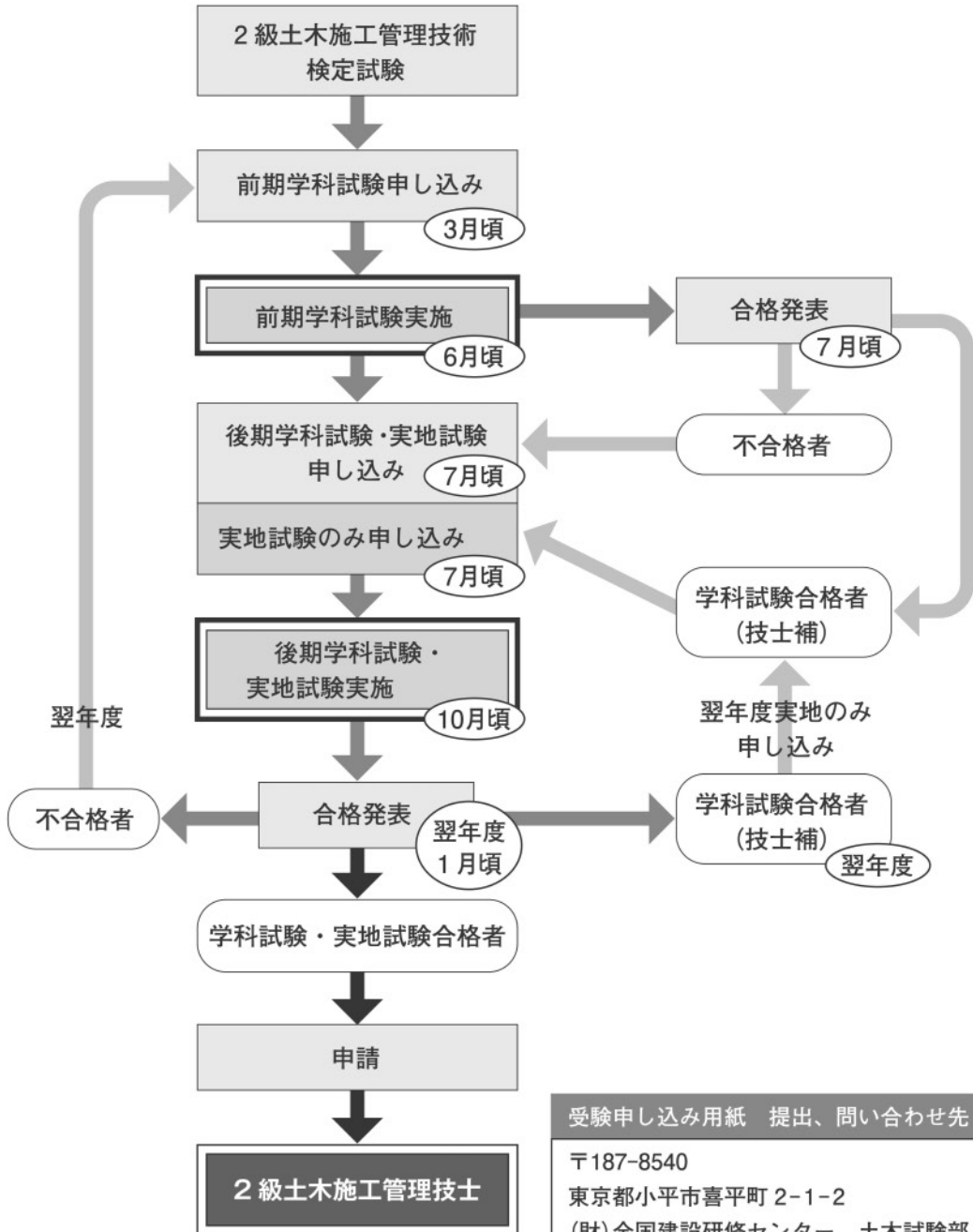


スーパーテキスト
無料動画



本テキスト動画視聴のパスワード

2級土木施工管理技士受験ガイダンス



受験申し込み用紙 提出、問い合わせ先
 〒187-8540
 東京都小平市喜平町 2-1-2
 (財)全国建設研修センター 土木試験部
 TEL 042-300-6860
 FAX 042-300-6868

2 級土木施工管理学科試験の概要

1 試験内容

〈平成 29 年度の例〉

	試験時間	出題数	必要解答数
学科試験 (午前の部)	2 時間 10 分	61 問	40 問
実地試験 (午後の部)	2 時間 0 分	9 問	7 問

●学科試験合格率 61% ●実地試験合格率 33% (最近 3 年間の平均)

2 出題内容

学科試験 (午前の部)				
出題分野	出題項目	出題数	必要解答数	選・必
土木一般	土工、コンクリート工、基礎工	11問	9 問	選択制
専門土木	構造物、河川・砂防、道路・舗装、ダム・トンネル、海岸・港湾、鉄道・上下水道	20問	6 問	選択制
土木法規	労働基準法、労働安全衛生法、建設業法、道路関係法、河川法、建築基準法、騒音規制法、振動規制法、火薬類取締法、港則法	11問	6 問	選択制
施工管理	共通工学、施工計画、工程管理、安全管理、品質管理、環境保全	19問	19問	必須制

実地試験 (午後の部)				
出題分野	出題項目	出題数	必要解答数	選・必
経験記述	工程、安全、品質管理の記述	1問	1問	必須制
土工	盛土、切土、軟弱地盤、法面保護	2 問	2 問	必須制
コンクリート工	骨材、混和剤打込み養生	2 問	2 問	必須制
品質・安全	作業床、足場、土留め	2 問	1 問	選択制
計画・環境	土工計画、コンクリート計画、建設副産物、近隣対策	2 問	1 問	選択制

3 学科試験の概要

分野		概要
土木施工管理技士試験出題の想定工事の内容：(問題を解く立場)		工事内容、規模1億円以上、道路新設工事を想定する。
土木一般	土工	(1) 軟弱地盤 (標準貫入試験で砂地盤 N 値 ≤ 10, 粘土地盤 N 値 ≤ 4)
	コンクリート工	(1) レディーミクストコンクリートの受入検査 ①スランプ・許容差 8~18cm ± 2.5cm, ワークビリティ ②空気量許容差 4.5 ± 1.5% 耐久性、耐凍害性 ③圧縮強度 (3回の試験)の、どの1回も指定呼び強度の85%以上、3回の平均値は呼び強度以上 ④塩化物含有量 0.3kg/m ³ 以下 (2) コンクリートの劣化 ①中性化は空気中の二酸化炭素が原因で鉄筋に錆発生 ②アルカリ骨材反応は、セメント中のアルカリと反応性骨材とが水の侵入を受けて膨張しひび割発生 ③凍害は、気温変化に伴う凍結融解作用ではがれ、欠損が発生 ④塩害は、コンクリートの塩化物イオンにより鋼材に錆が発生
専門土木	河川	(1) 堤防施工：施工は上流から下流、腹付盛土に段切、仕上り厚さ1層30cm以下、法面は法線に直角締固め。掘削、堤防除去は、下流から上流へ、裏法面から表法面。 (2) 護岸施工：基礎と根固工縁切で屈とう性、護岸表面凹凸、すりつけじゃ籠工、天端保護工は背面からの侵食防止

受験ガイダンス&学び方講習 - 4

分野		概要				
専門土木	道路舗装			1層仕上り厚	特徴	施工
		表層	10cm以下	ポーラス As 密粒度 As	温度管理 As量, 粒度	
		基層	10cm以下	粗粒度 As	110℃以上 140~160℃	
		上層路盤	15cm以下	粒度調整 安定処理	シックリフト プラント混合	
		下層路盤	20cm以下	粒状路盤 安定処理	路上混合	
		路床	20cm以下	石灰・粘土 セメント・砂 安定処理	設計 CBR 3以上 スタビライザ	
		路体	30cm以下	現地材料	As: アスファルト 量	
土木法規	労働基準法	労働契約条件：休憩時間、有給休暇、労働時間、休日、相殺禁止、契約年数3年、就業規則、賃金支払、金品返還				
	労働安全衛生法	安全管理体制：100人以上単一事業所、50人以上単一事業所、50人以上混在事業所、作業主任者、計画届出				
	建設業法	技術者：主任技術者、監理技術者、専任の技術者				
	騒音・振動規制法	地域指定は都道府県知事、特定建設作業の届出は市町村長、特定建設作業、騒音 85dB、振動 75dB 以下に規制				
施工管理	測量	(1)水準測量：電子レベルの機能、零点目盛誤差、両標尺間の中央 (2)位置測量：TS、GPS 測量、斜距離、水平角、鉛直角、セオドライト				
	公共工事標準請負約款	発注者と請負者の契約約款：一括一下請の禁止、現場代理人、中等の品質				
	施工計画	施工計画：計画の立案方針、任意仮設と指定仮設、土留め工、現場条件、契約条件、施工体制台帳				
	工程管理	(1)工程表：各作業用にはバーチャートとネットワーク。全体用には、S字形とバナナ曲線 (2)ネットワーク計算：最早開始時刻は流入矢線の最大値、クリティカルイベント、最遅完了時刻は流出矢線の最小値、余裕 (TF、FF、IF)				
	安全管理	(1)足場の安全：手すり 85cm以上、幅木 10cm以上、作業床幅 40cm以上、すき間 3cm以下 (2)土止め支保工：点検は7日以内、悪天候、地震の後、作業開始前 (3)移動式クレーンの安全：運転資格、据付、点検、定格荷重 (4)明り掘削：岩・硬い粘土 5m 未満 90° 以下、その他 2m 未満 90° 以下、2m ~ 5m 未満 75° 以下、5m 以上 60° 以下				

受験ガイダンス&学び方講習 -5

分 野		概 要
施工管理	品質管理	(1)品質管理 ISO9000 ファミリー、環境保全 ISO14000 ファミリー (2)ヒストグラムは製品の全体の品質の良否の判断、工程能力図は、品質の時間的な変動を把握し改善が早期対応 (3)品質計画：品質特性、品質標準、作業標準、実施、検討処理
	現場の環境 保全	(1)建設リサイクル法：元請の行う手続、発注者の対象建設工事の都道府県知事への届出、下請負業者への発注者の届出の告知、再資源化終了時の発注者への報告 (2)防音壁、防振溝、ゴム台座、仮囲い、作業時間の短縮、低騒音機械の使用、アイドリングストップ

第1分野

土木一般

1.1	土木一般	最新10年間の出題傾向
1.2	土工	最新問題演習
1.3	コンクリート工	最新問題演習
1.4	基礎工	最新問題演習
1.5	土木一般	重要項目集

土木施工管理技士
技術検定問題解読のための
基本用語集

土木一般
専門土木
土木法規
施工管理

土木一般の図解講習 無料 YouTube 動画講習

<http://www.get-ken.jp/>

GET 研究所

検索

スーパーテキスト
無料動画

本テキスト動画
視聴のパスワード

「技術検定問題解読のための基本用語集」を、GET 研究所ホームページから取得できます。

<http://www.get-ken.jp/>

GET 研究所

検索

受講生登録

WEB講習入口

基本用語集

PDFダウンロード

「平成29年度第2回学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。(公開中)

「平成30年度前期学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。(平成30年6月末予定)

「平成30年度後期学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。(平成30年11月末予定)

<http://www.get-ken.jp/>

GET 研究所

検索

受講生登録

WEB講習入口

2級学科(第2回)

2級学科前期

2級学科後期

PDFダウンロード

動画を見る

1.1 土木一般 最新 10 年間の出題傾向

分野	主要項目	H 29	H 28	H 27	H 26	H 25	H 24	H 23	H 22	H 21	H 20
土 工	原位置試験(標準貫入試験等)	○	○	○	○	○			○	○	
	土質試験(圧密試験等)							○			○
	土の変化率(土量計算等)						○			○	
	土工機械	○	○	○	○	○	○	○	○		
	盛土・切土・排水工の施工	○	○	○	○		○		○		○
	軟弱地盤対策	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	法面保護工									○	
コン クリ ート 工	コンクリート骨材(粗骨材、細骨材)		○	○	○		○		○	○	
	セメント、混和材、混和剤	○				○		○			○
	コンクリートの配合(水セメント比等)			○	○			○		○	○
	コンクリート運搬・打込み・締固め、打継目	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	各種コンクリート(暑中・寒中・マス)	○		○		○			○		
	養生、型枠支保工		○				○		○	○	
	レディーミクストコンクリート受入検査		○				○				○
	鉄筋工					○					
基 礎 工	打込み杭(ディーゼルパイルハンマ等)	○	○	○	○		○		○		○
	埋込み杭(中掘工法等)							○		○	
	場所打杭の掘削(アースドリル工法等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	場所打杭のコンクリート工(トレミー管等)										
	直接基礎工				○				○		○
	土留め工法・ケーソン	○	○	○		○	○	○		○	

1.2 土工 最新問題演習

問 1 ~ 問 4

1

土木一般

土工

土質調査の試験名と試験結果から求められるもの H29

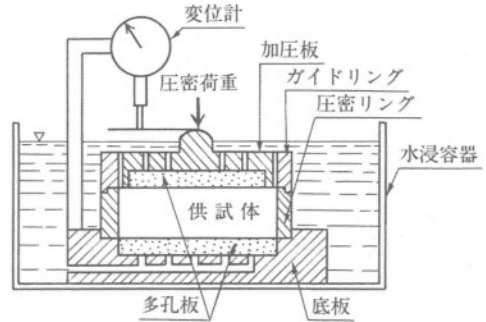
土質調査における「試験の名称」と「試験結果から求められるもの」に関する次の組合せのうち、**適当なもの**はどれか。

- | | |
|----------------------|-------------------|
| [試験の名称] | [試験結果から求められるもの] |
| (1) 圧密試験 | 粘性土の沈下に関すること |
| (2) CBR試験 | 岩の分類に関すること |
| (3) スウェーデン式サウンディング試験 | 地盤の中を伝わる地震波に関すること |
| (4) 標準貫入試験 | 地盤の透水に関すること |

解答・解説

正解(1)

- (1) **正** 圧密試験は、粘性土を圧密したときの圧密時間と沈下量の関係を調べる試験である。原地盤から採取した土を、供試体として圧密容器に入れて圧縮し、その試験結果から時間—圧密量曲線を描くことにより、粘性土の圧密沈下量・沈下時間・圧縮係数・透水係数などを求めることができる。よって、(1)は適当。

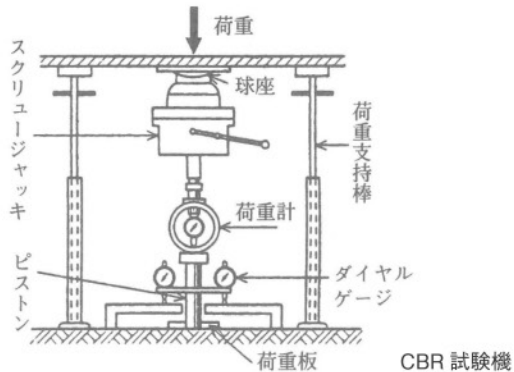


圧密試験で用いられる圧密容器の例

- (2) **誤** CBR試験は、路床などを200mmの区間に分割し、各区間において直径5cmのピストンを圧入したときの静的貫入抵抗から区間のCBR値を算出し、設計CBR値を求める試験である。CBR試験の結果から求められるものは、路床の支持力などである。岩の分類に関することは、弾性波探査(地盤の弾性波速度を調べる試験)の結果から求められる。

区間のCBR値と設計CBR値の関係

区間のCBR値	設計CBR値
2以上 3未満	2
3以上 4未満	3
4以上 6未満	4
6以上 8未満	6
8以上 12未満	8
12以上 20未満	12
20以上	20



※アスファルト舗装の設計CBR値は3以上としなければならない。

第2分野

専門土木

2.1	専門土木	最新 10 年間の出題傾向
2.2	構造物	最新問題演習
2.3	河川・砂防	最新問題演習
2.4	道路・舗装	最新問題演習
2.5	ダム・トンネル・海岸・港湾	最新問題演習
2.6	鉄道・上下水道	最新問題演習
2.7	専門土木	重要項目集



専門土木の図解講習 無料 YouTube 動画講習

<http://www.get-ken.jp/>



「技術検定問題解読のための基本用語集」を、GET 研究所ホームページから取得できます。

<http://www.get-ken.jp/>



「平成 29 年度第 2 回学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。（公開中）

「平成 30 年度前期学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。（平成 30 年 6 月末予定）

「平成 30 年度後期学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。（平成 30 年 11 月末予定）

<http://www.get-ken.jp/>



2.1 専門土木 最新 10 年間の出題傾向

分野	主要項目	H 29	H 28	H 27	H 26	H 25	H 24	H 23	H 22	H 21	H 20
構造物	鋼材の性質(降伏点、引張強さ等)	○				○	○	○		○	
	鋼材の加工(ボルト・溶接合等)		○	○	○		○		○		
	鋼橋の施工、架設工法	○	○	○	○	○		○		○	○
	コンクリート構造 (コンクリート耐久性能等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
河川	堤防の施工 (上流から下流に向けて盛土等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	河川護岸の施工(屈とう性、すりつけ等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
砂防	砂防えん堤の計画・施工 (水通し、水抜口)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	溪流保全工(床固工、帯工等)										
	地滑り防止工(排土工、杭工等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
道路・舗装	路体工・路床工(敷均し厚さ、CBR 等)		○								○
	下層・上層路盤(安定処理工法、材料)		○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アスファルト混合物施工 (コート、温度等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	アスファルト補修工法、排水性工法	○		○	○	○	○	○		○	○
	コンクリート版の施工(粗面仕上げ等)	○	○	○	○	○	○	○	○		
ダム	ダム施工(ダムコンクリート、打継目)	○	○		○	○	○	○	○		○
	レヤー工法(RCD 工法のリフト高さ等)			○						○	
トンネル	トンネル掘削工法(NATM 工法等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	トンネル覆工(セグメント、インバート等)										

12

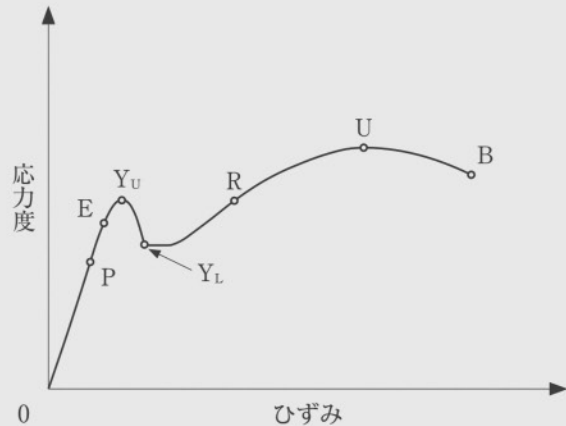
専門土木

構造物

応力-ひずみ曲線図

H29

右図は一般的な鋼材の応力度とひずみの関係を示したものであるが、次の記述のうち、**適当でないものはどれか。**

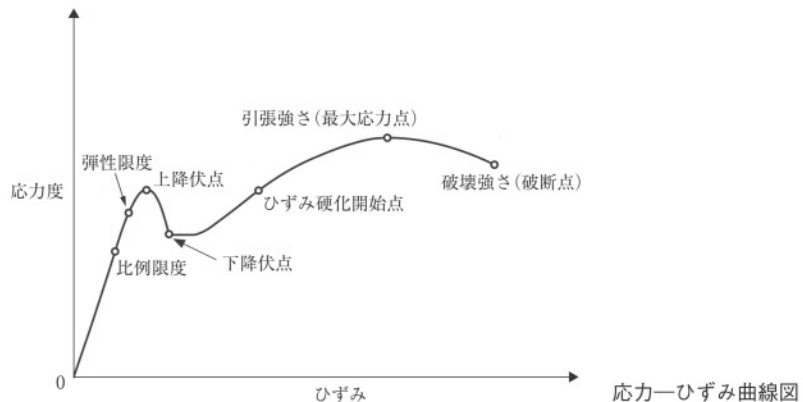


- (1) 点 P は、応力度とひずみが比例する最大限度という。
- (2) 点 E は、弾性変形をする最大限度という。
- (3) 点 B は、最大応力度の点という。
- (4) 点 Y_U は、応力度が増えないのにひずみが急激に増加しはじめる点という。

解答・解説

正解 (3)

- (1) **正** 点 P は、応力度とひずみが比例する最大限度を示す点(比例限度)である。
- (2) **正** 点 E は、弾性変形をする最大限度を示す点(弾性限度)である。引張力によって生じた応力度が弾性限度以下であれば、その応力を取り去ったとき、ひずみがゼロに戻る。
- (3) **誤** 点 B は、引張力によって生じた応力度の影響で、鋼材が引き裂かれる点(破壊強さ)である。点 U は、引張強さが最大となる最大応力度の点(引張強さ)である。よって、(3)は不適当。
- (4) **正** 点 Y_U は、応力度が増えないのにひずみが急激に増加し始める点(上降伏点)である。応力度が上降伏点に達すると、その後に応力度を少なくしていても、下降伏点に達するまではひずみが大きくなり続ける。点 Y_L は、その後に再び応力度が増えるまではひずみが増大しなくなる点(下降伏点)である。



応力-ひずみ曲線図

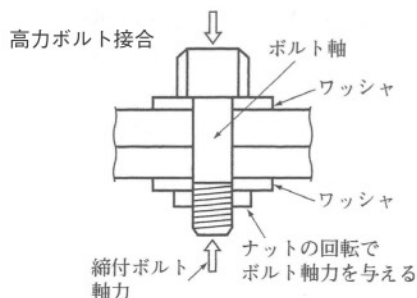
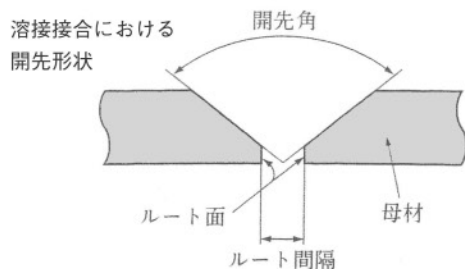
鋼道路橋に高力ボルトを使用する際の確認する事項に関する次の記述のうち、適当でないものはどれか。

- (1) 鋼材隙間の開先の形状
- (2) 高力ボルトの等級と強さ
- (3) 摩擦面継手方法
- (4) 締め付ける鋼材の組立形状

解答・解説

正解(1)

- (1) **誤** 鋼道路橋の高力ボルト接合は、鋼材を相互に突き合わせて添接板を添え、ボルト孔にボルトを挿入して締め付ける接合方法である。鋼道路橋の高力ボルト接合では、鋼材に開先を設けないので、その形状を確認することはない。鋼道路橋の溶接接合では、鋼材に開先を設けるため、鋼材の開先形状を確認する必要がある。よって、(1)は不適当。



- (2) **正** 鋼道路橋の高力ボルト接合では、接合前に、高力ボルトの等級と強さを確認する。各種の高力ボルトの強さ(許容応力)は、右表の通りである。

高力ボルトの等級	ねじの呼び径	ボルト1本の1摩擦面あたりの許容応力
F8T	M20	31.3kN
	M22	38.8kN
	M24	45.2kN
F10T S10T	M20	38.8kN
	M22	48.2kN
	M24	56.0kN

- (3) **正** 鋼道路橋の高力ボルト接合では、摩擦面すべり係数を0.4以上としなければならない。摩擦面すべり係数は、継手方法により異なるので、摩擦面継手方法を確認する必要がある。なお、高力ボルト接合は、部材間の摩擦面を利用して締め付け力を伝達する摩擦接合である。普通ボルト接合は、ボルトのせん断強さを利用するせん断接合である。
- (4) **正** 鋼道路橋の高力ボルト接合では、締め付ける鋼材の組立形状を確認する必要がある。具体的には、ボルト孔の位置・ボルト径・ボルト長さなどを確認する。

第3分野

土木法規

- | | | |
|-----|--------------|-------------|
| 3.1 | 土木法規 | 最新10年間の出題傾向 |
| 3.2 | 労働関係法 | 最新問題演習 |
| 3.3 | 国土交通省関係法 | 最新問題演習 |
| 3.4 | 火薬類・環境・港則関係法 | 最新問題演習 |
| 3.5 | 土木法規 | 重要項目集 |



「技術検定問題解読のための基本用語集」を、GET 研究所ホームページから取得できます。

<http://www.get-ken.jp/>



「平成 29 年度第 2 回学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。(公開中)

「平成 30 年度前期学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。(平成 30 年 6 月末予定)

「平成 30 年度後期学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。(平成 30 年 11 月末予定)

<http://www.get-ken.jp/>



3.1 土木法規 最新10年間の出題傾向

分野	主要項目	H 29	H 28	H 27	H 26	H 25	H 24	H 23	H 22	H 21	H 20
労働基準法	労働契約(相殺禁止、解雇、災害補償)	○		○		○			○		
	労働時間(休憩、休日、有給等)	○			○	○	○			○	○
	賃金の支払(賃金、既往賃金支払)		○	○				○	○		○
	年少者、女性就業制限		○		○		○	○		○	
労安法	計画(工事、設備の届出)			○					○		
	安全管理体制(作業主任者等)	○	○		○	○	○	○		○	○
建設業法	監理技術者、主任技術者	○		○	○	○		○	○	○	○
	請負契約(元請負人の義務)		○				○				
道路法	車両制限令(高さ、幅、長さ等)		○		○		○			○	
	道路管理者の許可(占用許可、標識)	○		○		○		○	○		○
	警察署長の許可(使用許可)										
河川法	河川管理者の許可	○		○	○	○	○		○	○	○
	河川用語の定義		○					○			
建基法	建築用語の定義	○	○	○				○	○	○	○
	仮設建築物				○	○	○				
火薬法	火薬類の取扱い(火工所、消費等)	○	○		○	○	○	○	○		○
	届出・運搬(公安委員会等)			○						○	
騒音・振動規制	特定建設作業(適用外事項等)	○		○ ○		○	○	○			○
	規制基準・届出(市町村長)	○	○ ○		○	○		○	○ ○	○ ○	○
	地区指定(都道府県知事等)				○		○				
港則法	航路・航法			○	○	○	○	○	○	○	○
	港長への届出・報告・許可	○	○								

3.2 労働関係法 最新問題演習

問 32 ~ 問 34

32

土木法規

労働基準法

労働時間・休憩・休日・年次有給休暇

H29

労働基準法に定められている労働時間、休憩、休日に関する次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 使用者は、労働時間が8時間を超える場合においては、少なくとも1時間の休憩時間を労働時間の途中に与えなければならない。
- (2) 使用者は、原則として労働者に休憩時間を除き1週間について60時間を超えて労働させてはならない。
- (3) 使用者は、労働者に対して4週間を通じて3日以上の上の休日を与えなければならない。
- (4) 使用者は、雇入れの日から起算して3箇月間継続勤務したすべての労働者に対して有給休暇を与えなければならない。

解答・解説

正解(1)

- (1) **正** 使用者は、労働時間が6時間を超える場合においては少なくとも45分、8時間を超える場合においては少なくとも1時間の休憩時間を、労働時間の途中に与えなければならない。よって、(1)は正しい。
- (2) **誤** 使用者は、原則として、労働者に、休憩時間を除き、1週間について40時間を超えて労働させてはならない。
- (3) **誤** 使用者は、労働者に対して、毎週少なくとも1回の休日を与えるか、4週間を通じて4日以上の上の休日を与えなければならない。
- (4) **誤** 使用者は、その雇入れの日から起算して6箇月間継続勤務し、全労働日の8割以上出勤した労働者に対して、10労働日の有給休暇を与えなければならない。

32

土木法規

労働基準法

賃金の支払い

H28

労働基準法に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 使用者は、労働者が重大な過失によって業務上負傷し、かつ使用者がその過失について行政官庁の認定を受けた場合においては、休業補償を行わなくてもよい。
- (2) 賃金は、賃金、給料、手当など使用者が労働者に支払うものをいい、賞与はこれに含まれない。
- (3) 賃金は、原則として通貨で、直接労働者に、その全額を支払わなければならない。
- (4) 使用者は、最低賃金の適用を受ける労働者に対し、その最低賃金額以上の賃金を支払わなければならない。

解答・解説

正解(2)

- (1) **正** 労働者が重大な過失によって業務上負傷するか疾病にかかり、かつ使用者がその過失について行政官庁の認定を受けた場合においては、使用者は、休業補償や障害補償を行わなくてもよい。
- (2) **誤** 賃金とは、賃金・給料・手当・賞与など、労働の対償として使用者が労働者に支払うすべてのものをいう。よって、(2)は誤り。
- (3) **正** 賃金は、原則として、通貨で、直接労働者にその全額を支払わなければならない。
- (4) **正** 使用者は、最低賃金の適用を受ける労働者に対し、その最低賃金額以上の賃金を支払わなければならない。

賃金の支払いに関する次の記述のうち、労働基準法上、誤っているものはどれか。

- (1) 平均賃金とは、これを算定すべき事由の発生した日以前**3箇月間**にその労働者に対し支払われた賃金の総額を、その期間の総日数で除した金額をいう。
- (2) 使用者は、労働者が出産、疾病、災害などの場合の費用に充てるために請求する場合には、支払期日前であっても、既往の労働に対する賃金を**支払わなければならない**。
- (3) 使用者は、未成年者の賃金を**親権者又は後見人**に支払わなければならない。
- (4) 出来高払制その他の請負制で使用する労働者については、使用者は、**労働時間**に応じ一定額の賃金の保障をしなければならない。

解答・解説

正解(3)

- (3) **誤** 労働者が未成年であるかどうかに関係なく、賃金は、必ず本人に支払わなければならない。よって、(3)は誤り。
- (1) **正** 平均賃金とは、過去3ヶ月間に支払われた賃金の総額を、その期間の総日数で割った金額である。ただし、臨時に支払われた賃金は、平均賃金の計算に含めない。
- (2) **正** 出産・疾病・災害などの費用に充てるために賃金を請求された使用者は、支払期日前であっても、既往の労働に対する賃金を労働者に支払わなければならない。
- (4) **正** 出来高払制その他の請負制で使用する労働者についても、労働時間に応じた一定額の賃金を支払わなければならない。

労働時間などに関する次の記述のうち、労働基準法上、誤っているものはどれか。

- (1) 使用者は、原則として労働者に対して、**毎週少なくとも1回**の休日を与えなければならない。
- (2) 使用者は、原則として労働者に、休憩時間を除き1週間について**48時間**を越えて、労働させてはならない。
- (3) 使用者は、原則として労働時間が6時間を越える場合には、**少なくとも45分間**の休憩時間を労働時間の途中で与えなければならない。
- (4) 使用者は、原則として1週間の各日については、労働者に、休憩時間を除き1日について**8時間**を越えて、労働させてはならない。

解答・解説

正解(2)

- (2) **誤** 原則として、使用者は、労働者に、休憩時間を除き1週間について40時間を超えて労働させてはならない。よって、(2)は誤り。
- (1) **正** 原則として、使用者は、労働者に、毎週少なくとも1回の休日を与えなければならない。
- (3) **正** 原則として、使用者は、労働時間が6時間を越える労働者に、45分以上の休憩時間を労働時間の途中で与えなければならない。
- (4) **正** 原則として、使用者は、労働者に、休憩時間を除き1日について8時間を超えて労働させてはならない。

第4分野

施工管理

- 4.1 施工管理 最新10年間の出題傾向
- 4.2 共通工学 最新問題演習
- 4.3 施工計画 最新問題演習
- 4.4 工程管理 最新問題演習
- 4.5 安全管理 最新問題演習
- 4.6 品質管理 最新問題演習
- 4.7 環境保全 最新問題演習
- 4.8 施工管理 重要項目集

土木施工管理技士 技術検定問題解読のための 基本用語集

土木一般
専門土木
土木法規
施工管理

施工管理の図解講習 無料 YouTube 動画講習

<http://www.get-ken.jp/>

GET 研究所

検索



スーパーテキスト
無料動画



本テキスト動画
視聴のパスワード

「技術検定問題解読のための基本用語集」を、GET 研究所ホームページから取得できます。

<http://www.get-ken.jp/>

GET 研究所

検索



受講生登録



WEB講習入口



基本用語集



PDFダウンロード

「平成29年度第2回学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。(公開中)

「平成30年度前期学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。(平成30年6月末予定)

「平成30年度後期学科試験の問題と解答」は、GET 研究所ホームページから取得できます。(平成30年11月末予定)

<http://www.get-ken.jp/>

GET 研究所

検索



受講生登録



WEB講習入口



2級学科(第2回)

2級学科前期

2級学科後期



PDFダウンロード

動画を見る

4.1 施工管理 最新10年間の出題傾向

分野	主要項目	H 29	H 28	H 27	H 26	H 25	H 24	H 23	H 22	H 21	H 20
測量	水準測量、電子レベル取扱い			○					○	○	
	標高計算	○			○		○				○
	TS(トータルステーション)、GNSS		○			○		○			
設計図書	公共工事標準請負契約約款	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	設計図の読み方(溶接記号、鋼材表示等)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
機械電気	機械(土工機械、オフロード法等)	○	○	○	○	○	○		○	○	○
	電動機(ポンプ等)							○			
施工計画	事前調査(現場条件、契約条件)	○	○			○	○			○	
	施工計画(工程・原価、立案方針、台帳)			○	○		○	○	○		○
	仮設備計画・計画の届け出	○	○	○	○	○			○		
	施工機械	○	○	○	○	○		○	○	○	○
工程管理	工程計画(最適工期と最小原価、グラフ)	○								○	
	工程表の種類と特徴		○	○	○	○	○	○	○		○
	ネットワーク工程表					○					
	ネットワーク計算	○	○	○	○		○	○	○	○	○
安全管理	安全管理体制(災害統計、安全衛生教育)	○	○	○	○				○	○	○
	車両系建設機械		○	○		○	○	○	○		
	足場・作業床・墜落防止措置	○	○	○		○	○	○	○	○	○
	土留め支保工・掘削の安全対策	○		○	○			○	○		○
	移動式クレーンの安全対策				○						○
	解体作業の安全対策	○									
	各種労働災害防止対策(熱中症、型枠支保)				○	○	○			○	
	市街地公衆災害防止対要綱					○				○	

分野	主要項目	H 29	H 28	H 27	H 26	H 25	H 24	H 23	H 22	H 21	H 20
品質管理	品質計画(品質管理手順、品質特性)		○	○	○		○	○		○	
	ヒストグラム・管理図・特性要因図	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	土工の品質管理、土の締固め	○ ○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	レディーミクストコンクリート受入検査	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	舗装品質管理、試験頻度、締固め度					○			○		○
	ISO9000 ファミリー										
環境保全	現場環境保全(騒音・振動、アセスメント)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	建設副産物対策(廃棄物処理法)		○		○		○	○			○
	建設リサイクル法	○		○		○			○	○	

43

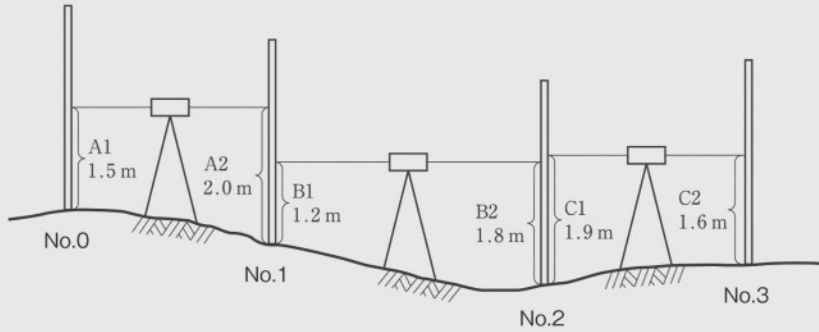
施工管理

共通工学

水準測量による地盤高の測定

H29

下図のように No.0 から No.3 までの水準測量を行い、図中の結果を得た。
No.3 の地盤高は次のうちどれか。なお、No.0 の地盤高は 10.0 m とする

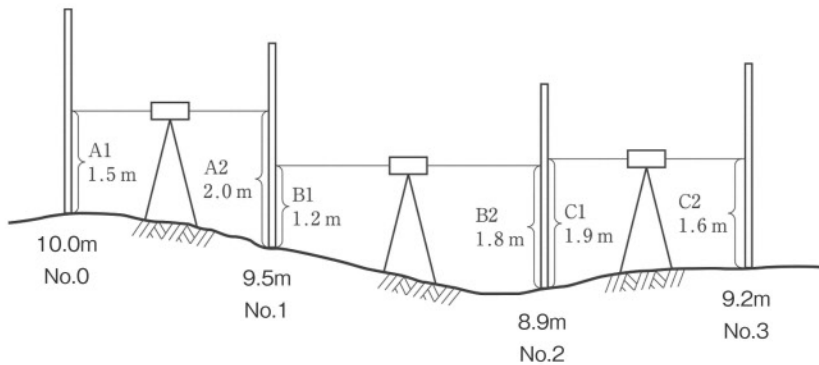


- (1) 8.9m
- (2) 9.2m
- (3) 9.5m
- (4) 10.0m

解答・解説

正解(2)

- (2) No.3 の地盤高は、No.0 の地盤高に、後視の合計(A1+B1+C1)を加え、前視の合計(A2+B2+C2)を減じた値である。したがって、次の式が成り立つ。
 No.3 の地盤高 = 10.0 m + (1.5 m + 1.2 m + 1.9 m) - (2.0 m + 1.8 m + 1.6 m) = 9.2 m
 よって、(2) が正しい。



2級土木施工管理技術検定 学科試験



1 虎の巻(精選模試)第一巻 45分間

2 虎の巻(精選模試)第二巻 45分間

実施要項

- 試験時間は各巻45分間です。すべての問題を解答してください。
- 解答は、○×で行ってください。
- 解答後、自己採点を行ってください。